

みんなで作る ひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする
取り組みを紹介します。



今回は、芦屋大学の中にある障害者就労支援スペース「あしかふえ」を紹介するよ。就労支援センターワークキューブと芦屋大学が協働し、大学生ボランティアも関わりながら運営しているんだ。誰もが気軽に利用できる場所なんだって。

「あしかふえ」の設立のきっかけ

障害者就労支援スペース「あしかふえ」(以下、「あしかふえ」)は、阪神間から大阪湾が一望できるロケーションにある芦屋大学福山記念館の5階に常設されたカフェ。窓から差し込む光が店内を照らし、香ばしいコーヒーの香りと心地よい音楽が流れている。

きっかけは、あしかふえを立ち上げた一人である芦屋大学臨床教育学部特任教授・学長室室長の中村光男氏の呼びかけ。日常生活の中から障害者と学生が共生社会を体感することを目的に、素晴らしいロケーションで未利用のスペースを活用してカフェを共同運営できる事業所を募集した。そこに手を挙げたのが、就労継続支援A型事業所の就労支援センターワークキューブ代表の鍋島奈穂子氏。芦屋市障害福祉課の助言を参考に、大学の共生社会を目指す取り組みとして「障害者の雇用促進」学生の学び「社会貢献」をテーマに平成29年1月にオープンした。現在はメニューも増え、パンや焼き菓子、ドリンクを販売している。

障害者と学生が 笑顔になれる場所へ

～障害者就労支援スペース「あしかふえ」～



障害のあるスタッフによる丁寧なレジ接客



ゆったりとくつろげるソファから眺望できる素敵な景色

就労の場であり学びの場

障害のあるスタッフは常時7～10名が働き、給仕やレジ、学生食堂でのワゴン販売等に協力して取り組む。同年代の若者と触れ合いながら就労を通して社会とのつながりを実感することができるが増え、人の役に立つたと感じることで自信につながる。広々とした明るい雰囲気の中では、自然に笑顔になるという。

また、学生にとって実践的な学びの場となっているだけでなく、自然に障害者と触れ合う中で理解と配慮を学んでいる。中村氏は「最初は戸惑いも見えたが、今はお互いを認め合い自然と生活できていることが何よりの成果だ」と話す。障害のあるスタッフと学生の双方に学びがあり、win-winの関係が構築されている。

さらに利用しやすい

鍋島氏は「障害者が働く環境を当たり前に思う学生が、あしかふえで感じたことを発信・実践することで、共生社会の礎を築くことができるとこやかに話す。今後は学生と協働し、地域の方にも幅広くあしかふえを利用してもらえるような新たな企画を検討している。

障害者が社会で働きやすくなる仕組みを作り、だれもが自分らしく生きることができる共生社会を目指し、あしかふえの取り組みが各地に広がることを願っている。

取材を終えて

あしかふえは、ユニバーサル社会づくりひょうご推進会議会長賞を受賞した産官学連携の取り組みです。お互いを知ることによって共生社会の実現があるのだと感銘を受けました。スタッフの笑顔とロケーションがとても素敵です。みなさんもぜひ足を運んでみてください。

障害者就労支援スペースあしかふえ
芦屋大学 福山記念館5F 芦屋市六麓荘町13-22
TEL 0797-23-0661(代)
営業時間 11:00～14:00(月～金)